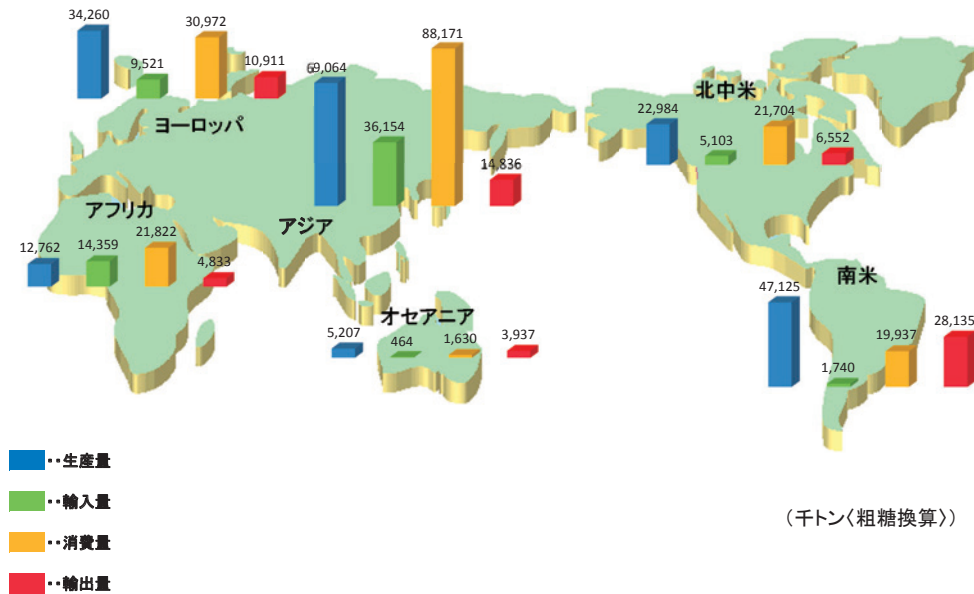


## 砂糖の国際需給

調査情報部 丸吉 裕子

### 1. 世界の砂糖需給（2017年12月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2017/18年度予測値）



資料：Agra CEAS Consulting※ [World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, December 2017]  
 (※農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社)  
 注1：年度は2017年10月～翌9月。  
 注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか5カ国を含む。

英国の調査会社Agra CEAS Consulting（農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社）の2017年12月現在の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2017/18砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億9140万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉）、前年度比7.3%増とかなりの増加が見込まれている（表1）。これは、主にアジアやヨーロッパなどの主要地域で増加が見込まれているためである。特に、2017年9月末に生産割当が廃止されたEUは、前年度比

12.6%増とかなりの増加が見込まれている。

同年度の世界の砂糖消費量は、アフリカやアジアで、人口増加や経済成長に伴い堅調に推移することから、1億8424万トン（同2.2%増）と見込まれている。

しかし、生産量は消費量を上回ると予想されることから、世界の砂糖需給は3年ぶりに緩和すると見込まれている。そのため、期末在庫率は前年度から2.0ポイント上昇し、39.7%と見込まれている。なお、地域別の砂糖需給は図1の通りとなっている。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	35,477	109,012	27,349	109,390	32,516	29,932	27.4
1994/95	36,020	116,084	33,328	114,963	33,905	36,564	31.8
1999/2000	54,618	134,332	38,747	130,126	40,070	57,501	44.2
2004/05	65,620	141,016	46,976	144,649	50,021	58,942	40.7
2009/10	60,045	158,448	57,159	162,342	57,166	56,144	34.6
2013/14	74,274	181,485	58,464	175,774	59,109	79,340	45.1
2014/15	79,340	180,710	58,811	178,746	59,673	80,442	45.0
2015/16	80,442	174,221	66,433	180,275	69,299	71,521	39.7
2016/17	71,521	178,449	62,144	180,197	64,062	67,855	37.7
2017/18 (2017年9月予測)	67,586	191,794	61,212	183,953	63,637	73,002	39.7
2017/18 (2017年12月予測)	67,855	191,402	61,799	184,236	63,662	73,158	39.7

資料：Agra CEAS Consulting 「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, December 2017」

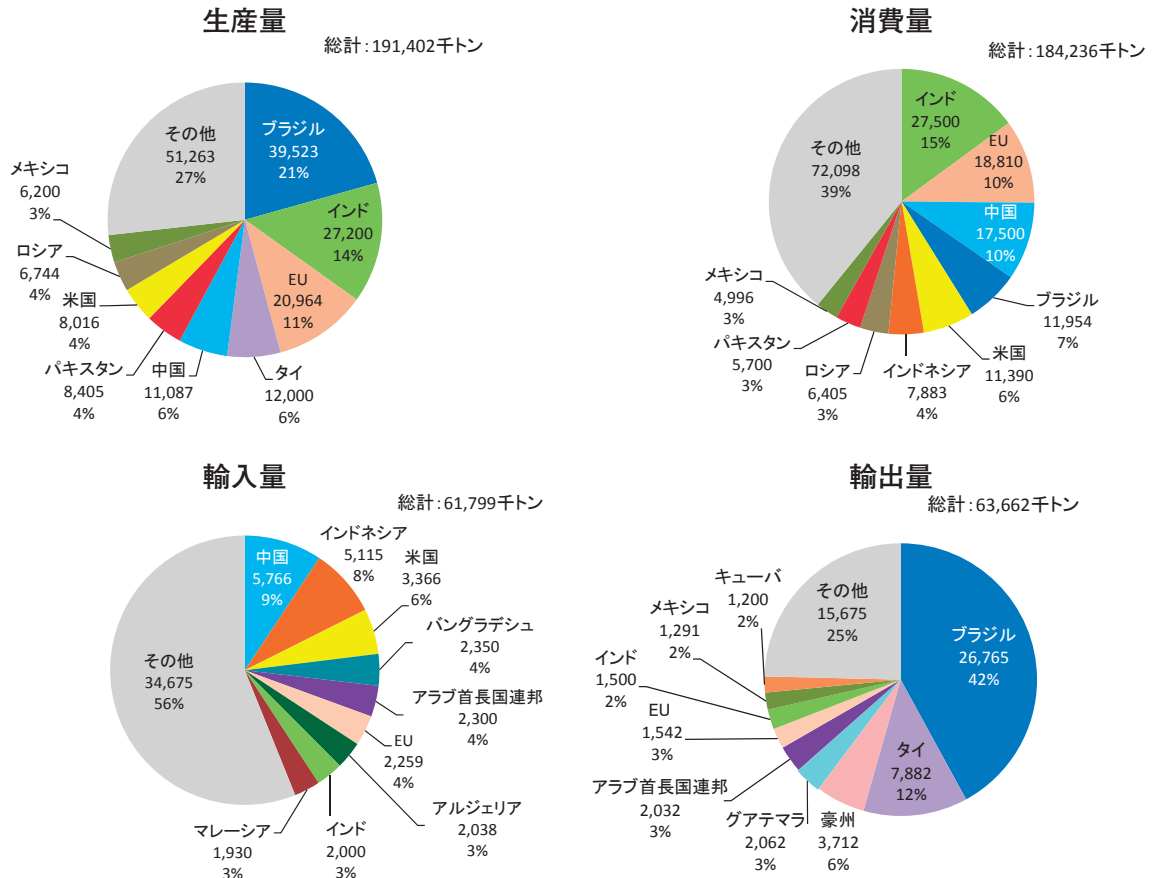
注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：2014/15年度から2015/16年度までは推定値、2016/17年度および2017/18年度は予測値である。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）である。

## 2. 主要国の砂糖需給（2017/18年度12月予測値）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量



資料：Agra CEAS Consulting 「World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis, December 2017」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：主要国（上位9カ国）とその他を表示。

注3：円グラフのその他は総計から主要国の計を差し引いた数値。

## 【生産量】

2017/18年度（10月～翌9月）の主要国の砂糖生産量を国別にみると、世界最大の生産国であるブラジルが、3952万トン（前年度比2.1%減）とわずかな減少が見込まれている（図2）。これは、降雨による圧搾作業の遅れや原油価格の上昇によるサトウキビのエタノールへの仕向け割合の増加が予測されているためである。

一方、インドやEU、タイ、中国といった生産量上位国はいずれも増加が見込まれている。特に、インドとタイは、好天による製糖歩留まりの向上が見込まれるため、それぞれ2720万トン（同23.1%増）、1200万トン（同16.5%増）と、ともに大幅な増加が見込まれ、タイは過去最高に達すると予測されている。EUは、2017年9月末の生産割当廃止により、域内主要生産国での増産が見込まれるため、2096万トン（同23.8%増）と大幅な増加が見込まれている。中国は、主要生産地における増産により、1109万トン（同9.8%増）とかなりの増加が見込まれている。パキスタンは、綿花からの作付け転換の進展に加え、単収の向上により、841万トン（同9.2%増）と、前年度に引き続き、かなりの増加が見込まれている。

## 【輸入量】

2017/18年度の主要国の砂糖輸入量を国別にみると、期首在庫量が低水準にある中国が577万トン（前年度比58.3%増）と大幅に増加し、最大の輸入国になると見込まれている。消費量の堅調な増加が前年度に引き続き見込まれるインドネシアは、512万トン（同1.9%増）とわずかな増加が見込まれている。米国は、主要生産地域におけるハリケーンや洪水、干ばつなどの被害により生産量が減少するため、337万トン（同15.5%増）とかなりの増加が見込まれている。

一方、EUは生産量の増加に伴い域内の砂糖価格

が下落傾向にあるため、226万トン（同28.8%減）と大幅な減少が見込まれている。また、インドは、干ばつ被害からの回復による増産が見込まれているため、200万トン（同21.5%減）と大幅な減少が見込まれている。

## 【消費量】

2017/18年度の主要国の砂糖消費量は、世界的に増加が見込まれている。経済成長や人口増加の著しいアジア圏での増加が見込まれ、最大消費国のインドが、2750万トン（前年度比3.7%増）、中国が1750万トン（同4.5%増）、インドネシアが788万トン（同4.2%増）とそれぞれやや増加、パキスタンは570万トン（同2.9%増）とわずかな増加が見込まれている。米国やロシアも、それぞれ1139万トン（同2.2%増）、641万トン（同1.0%増）といずれもわずかな増加が見込まれている。

## 【輸出量】

2017/18年度の主要国の砂糖輸出量については、最大輸出国であるブラジルが、生産量の減少に伴い2677万トン（前年度比5.4%減）とやや減少が見込まれている。また、インドは、2015年末から高騰する国内砂糖価格の安定化を図るため、2016年6月に輸出関税が導入されるとともに、2017年4月以降、貿易業者が保有する在庫数量に上限を設定するなどの措置が講じられたことから、150万トン（同30.3%減）と大幅な減少が見込まれている。

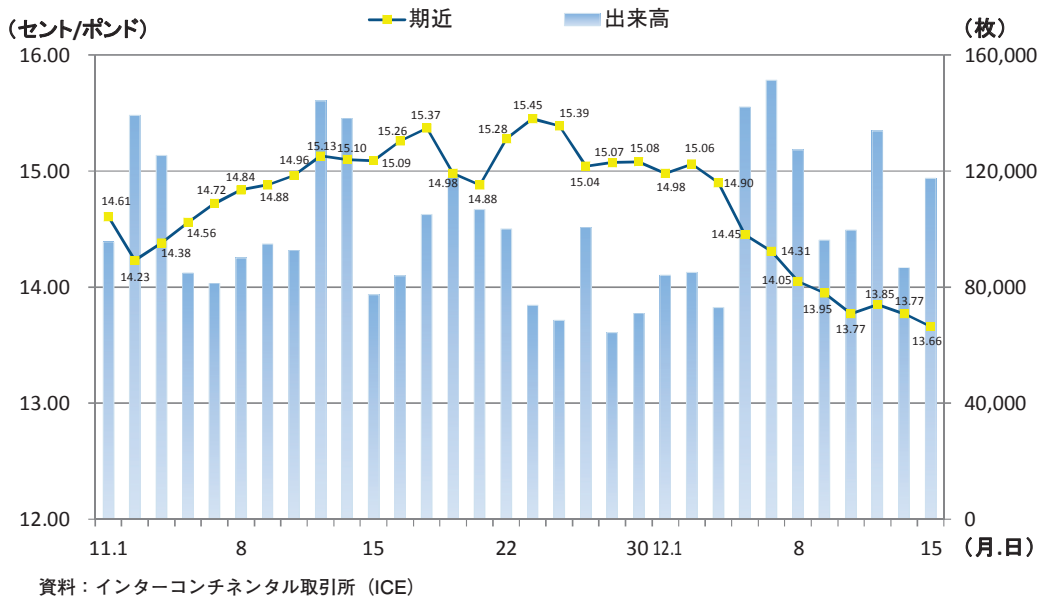
一方、過去最高の生産量が見込まれるタイは、台湾向け輸出の増加などに伴い、788万トン（同11.4%増）とかなりの増加が見込まれている。EUとキューバは、砂糖の増産などに伴いそれぞれ154万トン（同4.6%増）、120万トン（同15.4%増）と、ともに増加が見込まれている。

### 3. 国際価格の動向

#### ニューヨーク粗糖相場の動き（11/1～12/15）

～おおむね1ポンド当たり14～15セント台で推移も、供給過剰予測などから同13.66セントまで下落～

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



ニューヨーク粗糖先物相場（期近3月限）の2017年11月の推移を見ると、1日は1ポンド当たり14.61セントの値を付け、2日は同14.23セントに反落したが、インドの砂糖生産量が当初の予想を大きく下回るとの見通しや原油高によりブラジルでサトウキビのエタノール仕向け割合が一層高まるの見通しから13日には同15.13セントまで続伸した。17日には、5カ月半ぶりの高値となる同15.37セントに上昇した後反落し、21日には同14.88セントまで下げた。その後、ブラジル通貨レアルが米ドルに対し高値で推移したことが押し上げ要因となり、24日には約半年ぶりの高値となる同15.45セントまで上昇した。しかし、その後は、価格が上値に達したとして下落し、28日には同15.04セントへ下げ、その後は小幅に反発した。

12月に入ると、石油輸出国機構主導の協調減産延長を受けたエネルギー相場の上伸やドル安レアル高などに支えられ、4日には同15.06セントの値を付けた。しかし、その後は、インドやEUなど主要生産地域における増産予測に加え、パキスタンの堅調な輸出などによる世界市場の供給過剰予測から続落し、12日には同13.77セントまで下落した。その後、ブラジル上院が、今後数年以内にバイオ燃料利用を大幅に増進させるという法案を可決したことが押し上げ要因となり、13日は同13.85セントへ小幅に反発したが、引き続き世界の砂糖需給が緩むとの予測や、レアルが対米ドルで安値に推移していることが押し下げ要因となり、15日には同13.66セントまで続落した。

## 4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2017年12月時点予測）

### ブラジル

#### 2017/18年度（4月～翌3月）の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：884万ha（前年度比2.3%減）  
生産量：6億4763万トン（同1.5%減）

##### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：4080万トン（同0.7%増）  
輸出量：2870万トン（同0.1%減）

#### 2017/18年度の砂糖生産量、輸出量ともに前年度並みの見込み

2017/18砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、884万ヘクタール（前年度比2.3%減）とわずかに減少するものの、生産量は単収の増加から、6億4763万トン（同1.5%減）と見込まれている（表2）。

砂糖生産量は、4080万トン（同0.7%増）と前年度並みが見込まれている。これは、サトウキビの砂糖への仕向け割合の増加に加え、製糖歩留まりの向上が予想されているためである。輸出量については、国際的な砂糖需要が弱まると見込まれ、2870万トン（同0.1%減）と見込まれている。

ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）<sup>（注1）</sup>が発表した2017年4～11月の生産実績報告によると、中南部地域のサトウキビ圧搾量は、多雨の影響から、5億6818万トン（前年同期比2.3%減）とわずかに減少したが、砂糖生産量は、3509万トン（同1.1%増）とわずかに増加した。一方、エタノール生産量は、2446万キロリットル（同0.2%増）と前年度並みとなり、輸出量も含めたエタノールの販売量は、1760万キロリットル（同3.6%減）とやや減少した。含水エタノール<sup>（注2）</sup>の国内販売量は、価格の上昇により1007万キロリットル（同3.3%減）とやや減少したが、10月は150万キロリットル（前年同月比22.0%増）と大幅に増加し、2015

年9月以来の高水準となった。これは、7月にブラジル国営石油公社ペトロブラスがガソリン卸売価格を引き上げたことで、競合する含水エタノールの価格競争力が高まっているためである。石油・天然ガス・バイオ燃料監督庁（ANP）によると、11月の含水エタノール小売価格（サンパウロ州）は、1リットル当たり2.65レアル（93円〈11月末日TTS：1レアル=35円〉）とガソリン小売価格の同3.82レアル（134円）の70%<sup>（注3）</sup>を下回った。これにより、今後もエタノール需要が高まると見込まれることから、製糖企業によるサトウキビのエタノール仕向け割合が増加するとの見方が強まっている。

現地報道によると、南米南部共同市場（メルコスール）とEUの自由貿易協定（FTA）は、12月中を目途に大筋合意を目指していたが、2018年へ持ち越される可能性が高まっている。EUは、同FTAにおいて、粗糖については10万トンの関税割当（枠内税率は1トン当たり98ユーロ〈1万3132円〈11月末日TTS：1ユーロ=134円〉〉で、現行のCXL割当枠<sup>（注4）</sup>の枠内税率と同率）を導入し、エタノールについては6年以内に60万トンの関税割当を導入し、このうち40万トンは化学工業向けとする<sup>（注5）</sup>とみられている。これに対し、UNICAは、粗糖の市場アクセスが改善されない場合、ブラジル砂糖産業は十分な恩恵を受けることができないと非難している。

また、パリ協定に基づく温室効果ガス排出量の抑制などを目的とする新たな再生可能エネルギー法（RenovaBio）案が12月中旬、議会上院で可決された。同法案は、現行27%のガソリンへの無水エタノールの最低混合率を、2022年までに30%、2030年までに40%へ引き上げることなどが盛り込まれており、2019/20年度までに施行されるとみられている。

（注1）ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

（注2）自動車の燃料として用いられるエタノールには、

含水と無水の2種類がある。含水エタノールは製造段階で蒸留した際に得られた水分を5%程度含み、フレックス車（ガソリンとエタノールいずれも燃料に利用できる自動車）でそのまま燃料として利用される。一方、無水エタノールは含水エタノールから水分を取り除きアルコール100%としたもので、ガソリンに混合して利用される。

（注3）一般的なフレックス車のエタノール燃料効率がガソリンの70%程度とされていることから、消費者の購入判断の基準となっている。

（注4）粗糖輸入国であったフィンランドなどのEU加盟に当たり協議、合意の下に設定された関税割当てで、対象は、精製糖製造用の甘しゃ粗糖（ただし、インドはHSコード1701台のすべての品目）。

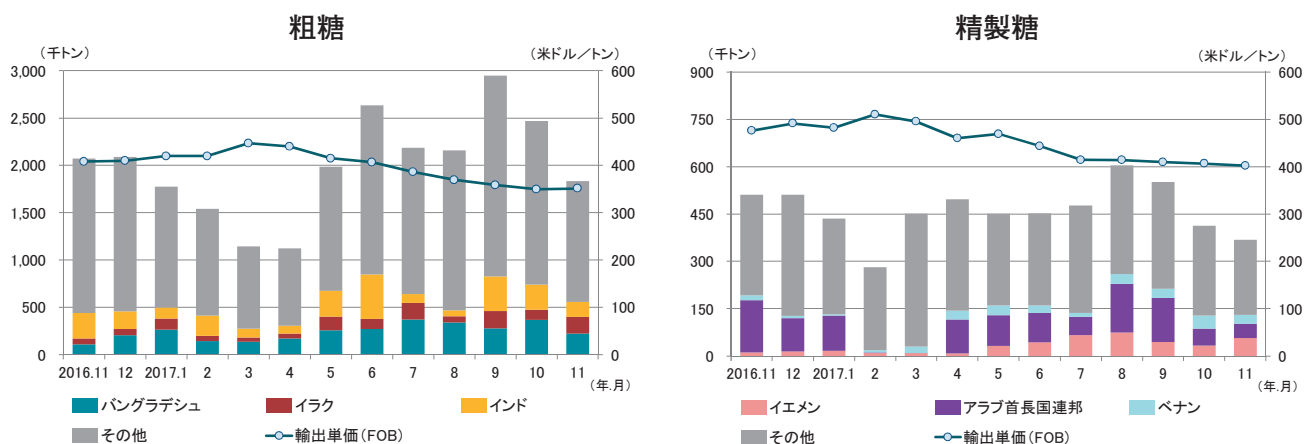
表2 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (11月予測)	2017/18 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	9,004	8,655	9,049	8,839	8,839	▲ 2.3	
サトウキビ生産量	634,767	665,586	657,184	647,626	647,626	▲ 1.5	
砂糖	生産量	37,313	35,194	40,534	40,800	40,800	0.7
	輸入量	-	-	-	-	-	-
	消費量	12,400	11,800	11,700	11,900	11,900	1.7
	輸出量	24,666	25,124	28,740	28,700	28,700	▲ 0.1
	期末在庫量	2,543	813	906	1,106	1,106	22.1
	期末在庫率	20.5	6.9	7.7	9.3	9.3	20.0

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, December 2017」

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## インド

### 2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：498万ha（前年度比5.0%増）  
生産量：3億3769万トン（同10.1%増）

#### 【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：2720万トン（同23.1%増）  
輸入量：200万トン（同21.5%減）

### 2017/18年度の砂糖生産量は大幅増、輸入量は大幅減の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は498万ヘクタール（前年度比5.0%増）とやや増加し、生産量は3億3769万トン（同10.1%増）とかなりの増加が見込まれている（表3）。砂糖生産量は、主要生産州で適度な降雨に恵まれ、製糖歩留まりの向上が見込まれていることから、2720万トン（同23.1%増）と3年ぶりの増加が見込まれている。

砂糖輸入量は、生産量が増加することから、200万トン（同21.5%減）と大幅な減少が見込まれている。

インド製糖協会（ISMA）によると、10～11月の砂糖生産量は、精製糖換算で395万トン（前年同期比42.0%増）と大幅に増加した。このうち、マハラシュトラ州では149万トン（同58.2%増）、ウッタールプラデシュ州では136万トン（同60.3%

増）、グジャラート州では18万トン（同26.8%増）と、いずれも大幅に増加した（図4）。一方、カルナタカ州では68万トン（同0.3%増）と前年度並みであった。

ISMAが11月下旬に発表した2017/18年度の砂糖需給見通しによると、砂糖生産量は、精製糖換算で2510万トン、砂糖輸入量は29万トンと見込まれている。

現地報道によると、中央政府は、貿易業者に対する砂糖の保有在庫数量の上限の設定について、12月末までで終了することを検討している。これは、2017/18年度の砂糖生産量が増加するとの見通しなどから国内砂糖価格が下落傾向で推移している中、貿易業者から早期の終了を要請されたことによる。また、同政府は7月上旬、砂糖の輸入関税について、40%から50%に引き上げたが、さらなる引き上げを検討している。

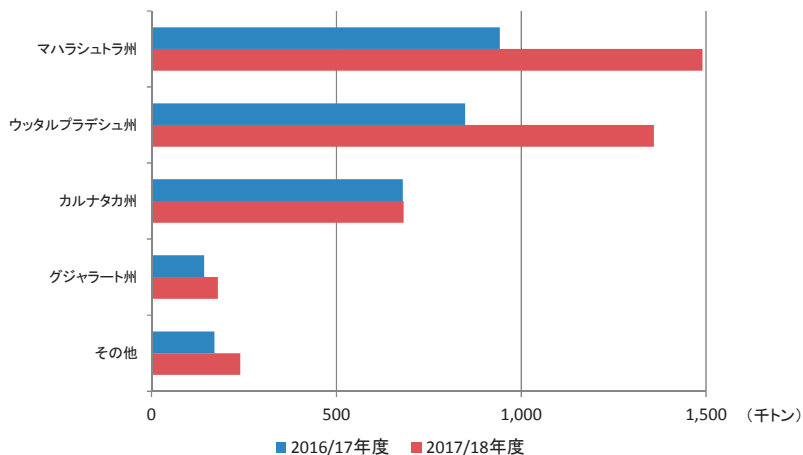
表3 インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (11月予測)	2017/18 (12月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	5,060	5,055	4,739	4,978	4,978	5.0
サトウキビ生産量	362,333	358,891	306,720	337,690	337,690	10.1
砂糖	生産量	30,616	27,372	22,100	27,200	23.1
	輸入量	1,303	1,904	2,548	2,000	▲ 21.5
	消費量	27,842	27,010	26,522	27,500	3.7
	輸出量	2,608	4,105	2,154	1,100	▲ 30.3
	期末在庫量	9,692	7,852	3,825	4,325	5.2
	期末在庫率	34.8	29.1	14.4	15.7	14.6

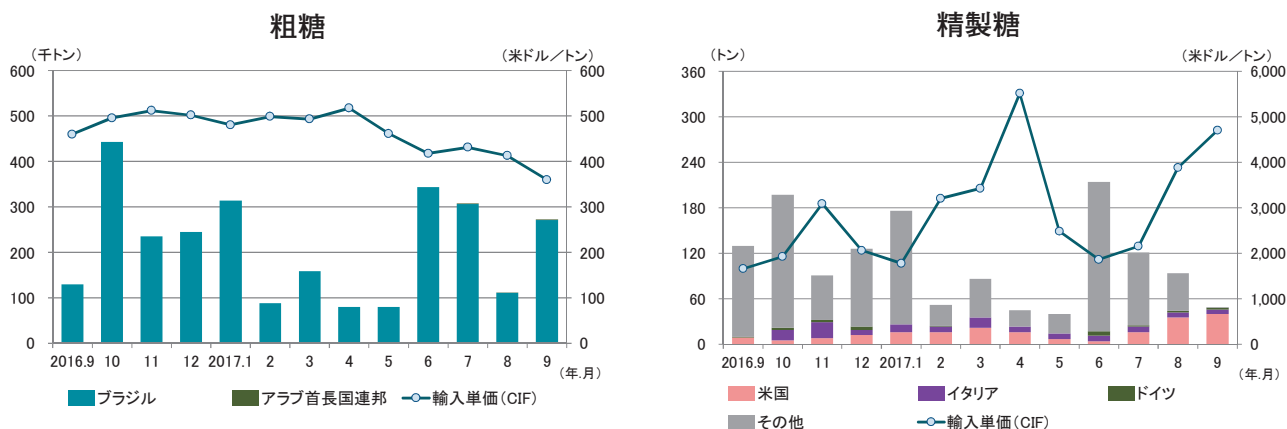
資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, December 2017]

図4 インドの地域別甘しや糖生産量（10～11月）



資料：ISMA

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## 中国

### 2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

**【サトウキビ・てん菜】**

収穫面積：193万ha（前年度比5.5%増）・20万ha（同30.9%増）

生産量：1億3700万トン（同8.3%増）・1100万トン（同42.8%増）

**【砂糖（甘しや糖およびてん菜糖）】**

生産量：1109万トン（同9.8%増）

輸入量：577万トン（同58.3%増）

### 2017/18年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅増の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌9月）は、サトウキビについては、収穫面積が193万ヘクタール（前年度比5.5%増）とやや増加し、生産量は単収の増

加も伴い、1億3700万トン（同8.3%増）とかなりの増加が見込まれている（表4）。

てん菜についても、収穫面積は20万ヘクタール（同30.9%増）、生産量は1100万トン（同42.8%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。地域別で



は、主要生産地である内モンゴル自治区の増加が見込まれている。これらにより、砂糖生産量は、1109万トン（同9.8%増）とかなりの増加が見込まれている。

砂糖輸入量は、依然として生産量が消費量を下回ると見込まれる中、期首在庫量が低水準にあることもあり、577万トン（同58.3%増）と大幅な増加が見込まれている。砂糖輸入については、2017年5月22日から3年間、世界貿易機関（WTO）協定に基づく関税割当（枠内関税率15%）の枠外で輸入される砂糖の関税率が95%まで引き上げられている<sup>（注）</sup>。中央政府は10月12日、2018年の砂糖の輸入割当数量を前年と同水準の195万トンに設定した。

現地報道によると、政府は、2022年までのサトウキビおよびてん菜生産の機械化目標を公表した。これは、国産砂糖の生産振興の一環であり、サトウキビの植え付けについては、現行の40%から70%へ、てん菜の播種<sup>はしゅ</sup>については、同80%から98%へ、また、収穫作業については、サトウキビが同4%か

ら20%へ、てん菜が同60%から90%へそれぞれ増加させることを目標としている。政府は、機械化の推進により、生産の拡大とともに、優良品種の栽培の促進や施肥およびかんがいなどの技術向上も目指している。

また、現地報道によると、政府は2020年までに、ガソリンに10%エタノールを混合した燃料を全国的に普及させることを計画している。現在、ガソリンへのエタノール混合率を設定している省・自治区は11にとどまるとされており、同計画を達成するには、1900万キロリットル以上のエタノール供給量が必要と見込まれている。

（注）海外からの安価な砂糖の流入により、国内の砂糖産業に影響が生じているとして、ブラジル、豪州および韓国などの砂糖輸入先国を対象に実施した調査結果を踏まえ、50%であった枠外税率が95%に引き上げられた。ただし、開発途上の約190の国や地域（フィリピンやパキスタンといった従来中国と関係の深い貿易相手国を含む）については、一定の条件を満たせば対象外とされている。

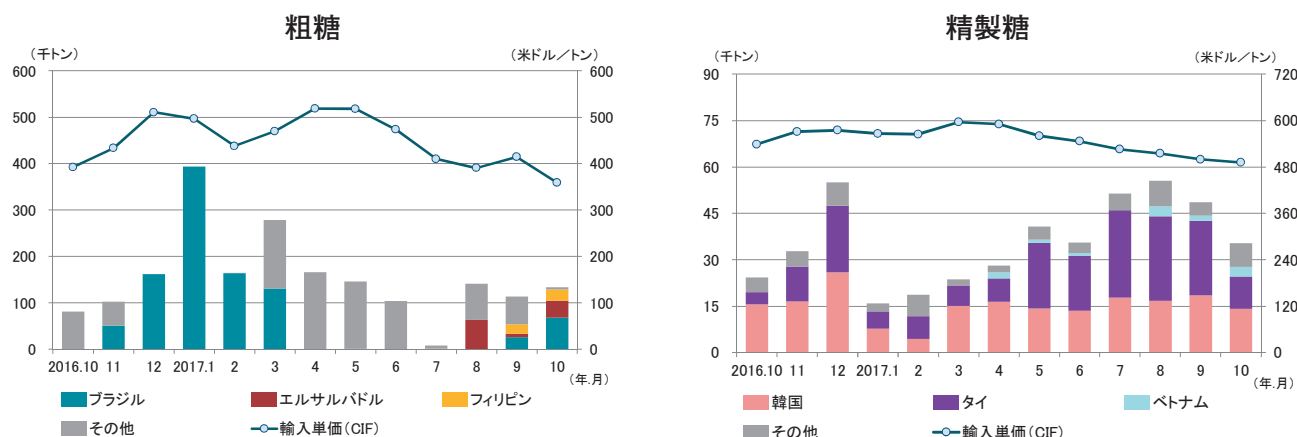
表4 中国の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (11月予測)	2017/18 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,760	1,660	1,827	1,927	1,927	5.5	
サトウキビ生産量	125,611	117,295	126,522	136,998	136,998	8.3	
てん菜収穫面積	139	135	149	195	195	30.9	
てん菜生産量	8,000	7,337	7,705	11,000	11,000	42.8	
砂糖	生産量	11,474	9,459	10,095	12,100	11,087	9.8
	輸入量	5,354	6,199	3,642	5,750	5,766	58.3
	消費量	16,600	17,283	16,739	17,500	17,500	4.5
	輸出量	64	167	135	80	80	▲ 40.7
	期末在庫量	7,305	5,513	2,377	2,649	1,650	▲ 30.6
	期末在庫率	44.0	31.9	14.2	15.1	9.4	▲ 33.6

資料：Agra CEAS Consulting 「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, December 2017」

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

E U

2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：185万ha（前年度比16.0%増）

生産量：1億4162万トン（同20.1%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：2096万トン（同23.8%増）

輸入量：226万トン（同28.8%減）

2017/18年度の砂糖生産量は大幅増、輸入量は大幅減の見込み

生産割当廃止後初年度となる2017/18砂糖年度（10月～翌9月）は、てん菜の収穫面積が185万ヘクタール（前年度比16.0%増）、生産量は、好天による単収の増加もあり、1億4162万トン（同20.1%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている（表5）。これにより、砂糖生産量は2096万トン（同23.8%増）と大幅に増加する一方、砂糖輸入量は226万トン（同28.8%減）と大幅な減少が見込まれている。

欧州委員会は10月6日、砂糖を含む農産物の短期需給見通しを公表した。これによると、2017/18年度のてん菜生産量は、生産割当の廃止に伴う栽培面積の拡大と単収の増加が見込まれることから、1億3111万トン（同17.3%増）となり、砂糖生産量も2013万トン（同19.5%増）と大幅に増加する一方、輸入量は150万トン（同34.9%減）

と、前年度の3分の2程度と見込まれている。輸出量は、域内消費量が大きく変わらない中、域内供給量の増加に加え、WTOの裁定により設けられた輸出上限が生産割当の廃止に伴い撤廃されることから、280万トン（同2.2倍）と見込まれている。ただし、輸出量は、国際価格とEU域内価格の動向に左右されるとみられる。

現地報道によると、EUとメルコスールのFTAは、12月中を目途に大筋合意を目指していたが、2018年へ持ち越される可能性が高まっている。EUは、同FTAにおいて、粗糖については10万トンの関税割当（枠内税率は1トン当たり98ユーロ〈1万3132円〉で、現行のCXL割当枠の枠内税率と同率）を導入し、エタノールについては6年以内に60万トンの関税割当を導入し、このうち40万トンは化学工業向けとするとみられている。

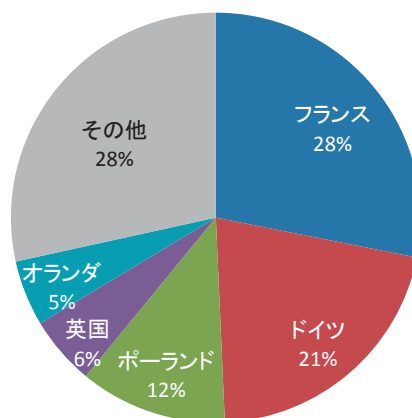
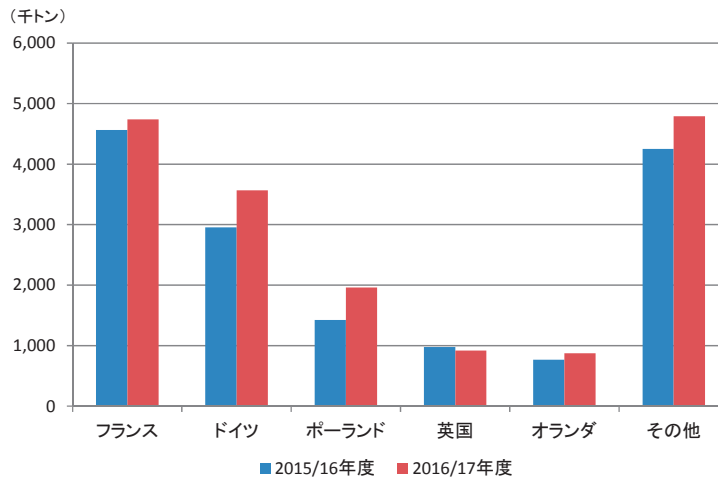
表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (11月予測)	2017/18 (12月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,632	1,437	1,592	1,846	1,846	16.0
てん菜生産量	131,009	105,162	117,948	141,621	141,621	20.1
砂糖	生産量	19,147	15,011	16,938	19,200	23.8
	輸入量	3,456	3,750	3,174	3,127	▲ 28.8
	消費量	19,245	18,719	18,740	18,759	0.4
	輸出量	1,558	1,506	1,475	1,341	4.6
	期末在庫量	10,599	9,135	9,032	11,293	31.8
	期末在庫率	55.1	48.8	48.2	60.2	63.3

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, December 2017]

(参考) EUの主要国別砂糖生産見込みおよび生産割合



資料：欧州委員会  
 注1：精製糖換算。  
 注2：2017年6月時点での予測値。  
 注3：2015/16年度は推定値、2016/17年度は予測値。  
 注4：生産割合は2016/17年度。

## 5. 日本の主要輸入先国の動向（2017年12月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2016年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が52.2%（前年比13.2ポイント増）、タイが47.7%（同8.3ポイント減）と、この2カ国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイは毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はグアテマラを報告する。

### 豪州

#### 2017/18年度（7月～翌6月）の見通し

##### 【サトウキビ】

収穫面積：40万ha（前年度比1.8%増）

生産量：3343万トン（同8.4%減）

##### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：488万トン（同1.0%減）

輸出量：370万トン（同5.6%減）

#### 2017/18年度の砂糖生産量はわずかに減少、輸出量はやや減少の見込み

2017/18砂糖年度（7月～翌6月）のサトウキビ収穫面積は40万ヘクタール（前年度比1.8%増）とわずかな増加が見込まれているものの、3月に襲来したサイクロンの影響による単収の減少から、生産量は3343万トン（同8.4%減）とかなりの減少が見込まれている（表6）。砂糖生産量は、製糖歩留まりの向上が見られることから、488万トン（同1.0%減）と見込まれている。輸出量は、中国向けなどの減少に伴い370万トン（同5.6%減）とやや減少が見込まれている。

豪州砂糖製造業者協議会（ASMC）は、2017/18年度のサトウキビ圧搾量見込みを3342万トンと、生産回復を反映し、11月中旬時点の予測から3万7000トン上方修正している。サトウキビの圧搾作業は、10月のクイーンズランド（QLD）州での記録的な多雨などにより遅延していたが、来年度のサトウキビ生産が後ろ倒しとなるまでの影響はないとみられている。

現地報道によると、Sugar Terminal Limited<sup>（注1）</sup>は2018/19年度までに、QLD州バンダバーグの砂糖輸出ターミナルの屋根の改修などに1500万豪ドル（13億500万円〈11月末日TTS：1豪ドル＝87円〉）を投資する計画を明らかにした。

また、現地報道によると、QLD州マツカイの製糖企業は12月上旬、QLD州砂糖公社（QSL）<sup>（注2）</sup>との砂糖輸出契約について、2019/20年度までで終了する意向を表明した。これに対し、サトウキビ生産者団体Canegrowers Australiaは、同企業が生産者所有企業でありながら、生産者への事前通知や相談もなく一方的に方針を決定したことについて、遺憾の意を表明した。

（注1） QLD州内の製糖企業や生産者が出資し、六つの砂糖輸出ターミナルを所有する企業。

（注2） QLD州産砂糖の輸出を担う公社。同州産砂糖輸出の9割を担っていたが、2015年の砂糖産業法の改正により、2017/18年度以降、製糖企業を介してQSLが輸出するという従来の形態に加え、QSL以外の砂糖輸出企業を生産者が選択できるようになった。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (11月予測)	2017/18 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	363	381	393	400	400	1.8	
サトウキビ生産量	32,360	34,827	36,500	33,396	33,426	▲ 8.4	
砂糖	生産量	4,780	5,052	4,926	4,890	▲ 1.0	
	輸入量	170	76	107	110	2.6	
	消費量	1,337	1,298	1,280	1,355	5.9	
	輸出量	3,687	4,152	3,919	3,700	▲ 5.6	
	期末在庫量	1,088	766	601	548	533	▲ 11.4
	期末在庫率	81.4	59.0	47.0	40.4	39.3	▲ 16.3

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, December 2017]

## タイ

### 2017/18年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：154万ha（前年度比9.4%増）  
生産量：1億500万トン（同12.9%増）

#### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：1200万トン（同16.5%増）  
輸出量：788万トン（同11.4%増）

### 2017/18年度の砂糖生産量は大幅増、輸出量はかなり増加の見込み

2017/18砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、他作物からの転作の進展などにより154万ヘクタール（前年度比9.4%増）、生産量は1億500万トン（同12.9%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている（表7）。

砂糖生産量は、好天により製糖歩留まりが向上し、1200万トン（同16.5%増）と過去最高に達すると見込まれている。このため、輸出量は、788万トン（同11.4%増）とかなりの増加が見込まれている。

現地情報によると、砂糖産業関連法の改正案は12月上旬、閣議で承認された<sup>(注1)</sup>。この改正によって、砂糖産業全体の収益をサトウキビ生産者と製糖業者で7：3の割合で分配する現行の収益分配方式は存続するが、砂糖の販売割当<sup>(注2)</sup>は一部を除いて廃止され、製糖企業は、生産量に応じた在庫量の確保が新たに義務付けられる予定である。政府が設定している国内砂糖価格は廃止されることとなる。改正後の新制度の施行開始時期については、当

初12月1日が予定されていたが、サトウキビ取引価格の算定方法に関する関係者との協議や国内砂糖小売価格の自由化に係る関連規定の改正などに時間を要しており、早くとも2018年頭に持ち越されると見込まれている。

現地情報によると、国内砂糖小売価格については、商務省が法改正後も引き続き監視するとみられる。現在、砂糖小売価格は、1キログラム当たり23.50バーツ（83円〈11月末日TTS：1バーツ＝3.52円〉）を上回らないよう管理されており、商務省は毎月、参照価格を公表することで、今後も小売価格が参照価格以下となるよう促すものとみられる。

(注1) タイ政府は2016年4月初旬、国際砂糖価格の低迷時などに製糖企業を通じて生産者に支払われる補填金や、砂糖の販売割当および国内販売価格の設定は、間接的な輸出補助金に当たりWTO協定に違反しているとして、ブラジル政府からWTOに提訴された。これを受け、タイ政府は同年11月3日、ブラジルとの2国間協議の場に、同年10月中旬に閣議承認された砂糖政策の改革案を提出した。サトウキビ・砂糖委員会事務局(OCSEB)

によると、改革案は再度閣議レベルで吟味され、公聴会を実施してから再提出するよう、OCSBへ返却された。その後、OCSBは公聴会を実施したが、関連規程の改正案などに時間を要していた。改革案は、先ごろ閣議へ再提出された。

(注2) タイ産砂糖は、A割当と呼ばれる国内供給向けとB割当およびC割当と呼ばれる輸出向けなどの販売割当に基づき管理されている。

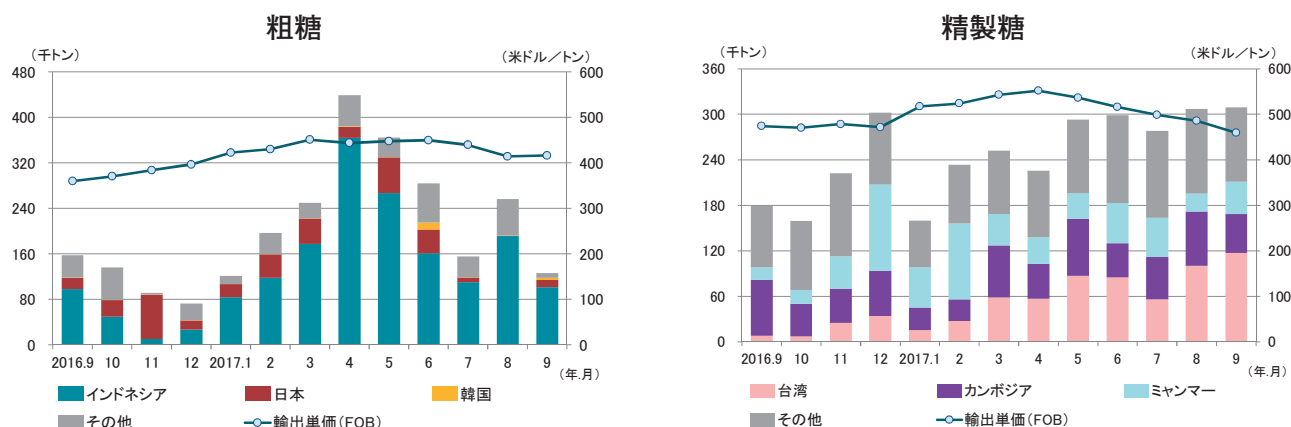
表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (11月予測)	2017/18 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,403	1,412	1,408	1,540	1,540	9.4	
サトウキビ生産量	105,595	94,047	93,000	105,000	105,000	12.9	
砂糖	生産量	11,579	10,025	10,299	12,000	16.5	
	輸入量	-	-	-	-	-	
	消費量	3,489	3,500	3,500	3,500	0.0	
	輸出量	8,071	7,805	7,078	6,800	11.4	
	期末在庫量	5,788	4,508	4,228	5,928	14.6	
	期末在庫率	165.9	128.8	120.8	169.4	138.5	14.6

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, December 2017」

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## グアテマラ

### 2017/18年度（11月～翌10月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：26万ha（前年度比3.0%増）

生産量：2529万トン（同4.7%増）

#### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：299万トン（同4.4%増）

輸出量：200万トン（同3.4%減）

### 2017/18年度の砂糖生産量はやや増加も、 輸出量はやや減少の見込み

2017/18砂糖年度（11月～翌10月）のサトウキビ収穫面積は、26万ヘクタール（前年度比3.0%増）、生産量は2529万トン（同4.7%増）と、ともにやや増加が見込まれている（表8）。このため、

砂糖生産量は、299万トン（同4.4%増）とやや増加すると見込まれている。

一方、輸出量は、中国向けなどの減少により、200万トン（同3.4%減）とやや減少すると見込まれている。

表8 グアテマラの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18 (12月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	262	252	256	263	3.0	
サトウキビ生産量	26,335	23,844	24,151	25,290	4.7	
砂糖	生産量	3,130	2,970	2,867	2,993	4.4
	輸入量	1	1	1	1	0.0
	消費量	843	826	876	900	2.7
	輸出量	2,411	2,066	2,070	2,000	▲ 3.4
	期末在庫量	367	446	368	463	25.7
	期末在庫率	43.5	54.0	42.0	51.4	22.3

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, December 2017]